

付録-6 詳細調査報告書様式（案）

—目次—

	ページ
詳細調査写真.....	1
コンクリート健全性調査票.....	2
アルカリ骨材反応調査.....	6
塩害調査票.....	8

詳細調査調書（その１）詳細調査写真

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名				点検者名		終	

詳細調査写真	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
			位置記号				部材名	
			部材記号				部材記号	
			損傷の種類				損傷の種類	
			損傷度評価				損傷度評価	
			メ	モ			メ	モ
	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
			位置記号				部材名	
			部材記号				部材記号	
			損傷の種類				損傷の種類	
			損傷度評価				損傷度評価	
			メ	モ			メ	モ

コンクリート健全性調査票（調査位置概要図）

管理番号		工 営 所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名				点検者名			終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

中性化深さ調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	
								起終	

調査位置詳細図（※1）				調査結果							
				調査径間			調査径間				
				調査部位			調査部位				
				(mm) 測定結果 (※2)	中性化深さ	①		(mm) 測定結果 (※2)	中性化深さ	①	
						②				②	
						③				③	
						平均				平均	
				(mm) 測定結果	かぶり深さ	①		(mm) 測定結果	かぶり深さ	①	
						平均				平均	
				環境条件 (通常:1、 塩害:2)			環境条件 (通常:1、 塩害:2)				
				発錆限界深さ (※3)			発錆限界深さ (※3)				
竣工年			竣工年								
供用年数			供用年数								
判定（中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○）											
その他											

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。（平均値からの偏差(%)=[(個々の値－平均値)／平均値]×100）

※3 発錆限界深さは、通常環境（かぶり深さ-10mm）、塩害環境（かぶり深さ-25mm）とする。

圧縮強度調査（コア法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起 終

調査結果	試料1	位置記号	供試体寸法		質量 (kg)	
		部材記号	供試体質量 (g)		見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1	最大荷重 f_c' (N)	
				2	高さ補正值	
				平均	高さ補正後圧縮強度(N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)	1	静弾性係数 (kN/mm ²)	
				2	設計基準強度(N/mm ²)	
				平均	判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	
		径間	供試体寸法		質量 (kg)	
	試料2	部位	供試体質量 (g)		見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1	最大荷重 f_c' (N)	
				2	高さ補正值	
				平均	高さ補正後圧縮強度(N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)	1	静弾性係数 (kN/mm ²)	
				2	設計基準強度(N/mm ²)	
				平均	判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	
		径間	供試体寸法		質量 (kg)	
	試料3	部位	供試体質量 (g)		見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1	最大荷重 f_c' (N)	
				2	高さ補正值	
				平均	高さ補正後圧縮強度(N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)	1	静弾性係数 (kN/mm ²)	
				2	設計基準強度(N/mm ²)	
				平均	判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	

圧縮強度調査（反撥硬度法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起 終

調査結果	調査No	1			調査No			
	調査部位	主桁			調査部位			
	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値
	1		16		1		16	
	2		17		2		17	
	3		18		3		18	
	4		19		4		19	
	5		20		5		20	
	6		21		6		21	
	7		22		7		22	
	8		23		8		23	
	9		24		9		24	
	10		25		10		25	
	11		26		11		26	
	12		27		12		27	
	13		28		13		28	
	14		29		14		29	
	15		30		15		30	
	平均値				平均値			
	標準偏差 σ_X				標準偏差 σ_X			
	打撃角度 α (°)				打撃角度 α (°)			
	角度補正值 ΔR				角度補正值 ΔR			
	補正反発硬度R				補正反発硬度R			
	補正前圧縮強度 F' (N/mm ²)				補正前圧縮強度 F' (N/mm ²)			
	材齢係数K				材齢係数K			
	補正後圧縮強度 F (N/mm ²)				補正後圧縮強度 F (N/mm ²)			
	設計基準強度 (N/mm ²)				設計基準強度 (N/mm ²)			
	判定				判定			

アルカリ骨材反応調査（調査位置概略図）

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称			
委託名				業者名				点検者名		所在地	起 終

位置記号		～		部材記号			
調査位置図（※1）							
その他							

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。（基本となる部材からの距離などを記入）

アルカリ骨材反応調査（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	
委託名				業者名		点検者名		起終	

位置記号		～						部材番号							
調査結果（※１）	試料 1	基準（mm）													
		標準養生		解放膨張量（mm）					解放膨張率（％）						
		時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	
		残存膨張量（mm）													
		残存膨張率（％）													
		時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W					
		残存膨張量（mm）													
		残存膨張率（％）													
		全膨張量（mm）													
		全膨張率（％）													
		残存膨張性													
		試料 2	基準（mm）												
			標準養生		解放膨張量（mm）					解放膨張率（％）					
			時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
			残存膨張量（mm）												
			残存膨張率（％）												
			時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
	残存膨張量（mm）														
	残存膨張率（％）														
	全膨張量（mm）														
	全膨張率（％）														
	残存膨張性														
	試料 3		基準（mm）												
			標準養生		解放膨張量（mm）					解放膨張率（％）					
			時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
			残存膨張量（mm）												
			残存膨張率（％）												
			時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
		残存膨張量（mm）													
		残存膨張率（％）													
		全膨張量（mm）													
		全膨張率（％）													
		残存膨張性													
アルカリ骨材反応（※２）															
判定															
評価															

※1 促進養生試験（JCI-DD2）またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。

塩害調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

塩害調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		起	
委託名				業者名		点検者名		所在地	終

調査位置詳細図（※１）			調査結果					
			位置記号					
			部材記号					
			含 有 塩分量 測定結果 (kg/m3) (※2)	表面部 〓(0-30mm)				
				中間部 〓(30-60mm)				
				深部 〓(60-90mm)				
				深部 〓(90-120mm)				
			中性化深さ(mm)					
			かぶり深さ測定結果(mm)					
			鉄筋位置の塩化物 イオン濃度					
			竣工年					
供用年数								
判定（1.2kg/m3以上：要対策， 1.2kg/m3未満：対策不要）								
評価								

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。